



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



広報

まつざき

2016
(平成28年)

3
No.622



「もうすぐ1年生」(2/5)

4月から小学1年生になる松崎幼稚園中川園と岩科園、聖和保育園の年長園児が松崎小学校に1日体験入学しました。園児は1年生の生徒と2人1組になり、学校を案内してもらいました。



松崎の活性化にー役

松崎町地域おこし協力隊

町では、地域おこし協力隊の制度を活用し、4人の隊員が活動しています。

地域おこし協力隊とは、地方自治体が都市住民を受け入れ、地域ブランドや地場産品の開発等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援等の「地域協力活動」に最長3年間従事してもらい、併せて定住・定着を図りながら、地域の活性化につなげる取り組みで、町では平成23年度から導入しています。

隊員は現在、石部棚田の保全、美しい村づくり、スポーツツーリズム、映像を利用した情報発信の4つの分野で、地域資源を生かした活動に取り組んでいます。

過疎化や高齢化が進み地域の担い手が不足している町において、新たな地域の担い手としての活躍が期待されます。



あり ま みのる
有馬 稔

前住所：東京都西東京市
(石部在住)

石部棚田の保全活動を行っています。最初は任務として、今では棚田だけでなく農村は将来に残すべき日本の財産だと感じ活動しています。今後は棚田保全とナリワイを結びつけて活動に取り組みます。石部で家を探しています。



の ぐち とも ひろ
野口 智弘

前住所：北海道千歳市
(江奈在住)

なまこ壁クリーニングや放棄果樹プロジェクト等を行っています。町内を回っていて、なまこ壁や果樹はもちろん、生活文化やそれに伴う技術等、松崎には多くの魅力が残っていると感じています。活動を通じて、それらのものを少しでも後世に繋いでいきたいです。



の なか なお み
野中 直美

前住所：静岡県掛川市
(那賀在住)

大自然と日常生活の距離感を心地良く感じる毎日です。協力隊という立場のおかげで、多分野の方々と交流、視野の広がる1年でした。出来ることから形にしていくな、失敗を恐れずチャレンジする、それが協力隊としての最大の任務だと考え、日々試行錯誤しています。



むら まつ まさ ひろ
村松 正浩

前住所：静岡県焼津市
(石部在住)

これまでにYouTubeにアップロードしたPR動画13本、DVD4本を制作しました。一つ一つは小さな作品ですが、パズルのピースのように全部揃うと「松崎町」という一つの大きな絵になるようなイメージで今後も制作していきたいです。



写真の説明 1・4 放棄果樹を収穫し、袋詰め。値札を貼って出荷の準備 2「クラウドファンディング」をテーマにまちづくり勉強会を開催 3 石部棚田であぜ塗りを指導 5 松崎高校の生徒有志と共になまこ壁の清掃を実施 6 ノルディックウォークのスタッフとして、町内を案内しながらウォーキング 7 外部へ情報発信するため活動状況を撮影 8 活動後には反省会を行い、次の活動に生かします

放棄果樹の活用

高齢化等の理由で管理しきれない柑橘類や柿等を持ち主に代わり収穫・販売・管理をする「放棄果樹プロジェクト」を行っています。今年度は収穫作業が主でしたが、来年度は剪定等を行い、果樹をやりたい人が現れた際に引き継げるよう管理していきます。

なまこ壁と鰻絵の保全

地域資源であるなまこ壁と鰻絵を守るため「松崎発なまこ壁と鰻絵を未来へつなぐプロジェクト」を立ち上げました。活動の第一歩として、現在のはなまこ壁クリーニングを行っています。これをきっかけに町民の方にもなまこ壁と鰻絵の価値を再認識していただき、地域資源を生かした活性化と一緒に考えていきたいと思っています。

石部棚田の保全

石部棚田保存会の会員とともに、石部棚田の保全に努めています。日々の水田の管理の他、石部の灯りや棚田音楽祭等のイベントを企画し、棚田に足を運んでもらうことで、

石部棚田の保全についての理解を図っています。石部棚田が存続するためにも、「棚田の守り人」がより増えるような仕組みづくりに取り組みたいと思います。

松崎の自然の活用

松崎町の大自然を身近に感じてほしいとの思いと、水辺の活動、安全教育という要素を生かし、水上から桜を楽しむ「伊豆松崎DE花見舟プロジェクト」を始めました。松崎町では初となるインターネットを活用した「クラウドファンディング」を取り入れての資金の確保、多くの人を巻き込んだ企画としてスタートしました。

協力隊では、ブログやツイッター等を使用した情報発信や、地域づくりに役立つ分野を学ぶまちづくり勉強会を開催する他、さまざまなイベント等に参加しています。また地域の一住民として地域の活動等にも参加しています。協力隊だけでなく住民の皆様とともに地域活性化に取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解・ご協力をお願いします。

松崎町地域おこし協力隊の活動情報は「松崎町地域おこし協力隊」で検索してください。

松崎町地域おこし協力隊

検索



◀ QRコードを読み取って松崎町地域おこし協力隊のフェイスブックにアクセス！



生涯学習だより

松崎町の生涯学習は、生涯にわたって学び、楽しみ、その成果が豊かな地域づくりに反映されることを目指しています。今年度も住民の皆様が、自ら課題を解決し、自己を高めていくために、学習活動の場を提供してきました。今年度の事業について報告します。

生涯学習教室

生涯学習教室は、初心者でも気軽に参加できる内容が多く、参加者の皆様は楽しみながら活動に取り組んでいました。

今年度は「デジカメ写真教室」、「大人向け英会話教室」「入門」、「おもしろ実験教室」、「長八学習会」、「鰻絵体験会」、「大人向け英会話教室」中級」、「読み聞かせ実践教室」の7講座を実施しました。また、生涯学習教室の他に「生涯学習塾」として、フリースペースとして教室を開塾しました。



長八学習会
講師：近藤二郎さん、本多正弘さん、中村一夫さん
(9月)



大人向け英会話教室
講師：ジェームス・アンティルさん
(8月～9月、2月～3月)

教養講座

今年度の教養講座も、「歴史」をテーマに、身近な地域の歴史から日本史や世界史へのつながりを見つける「松崎・賀茂の近代史」を全3回で開催しました。



松崎・賀茂の近代史
講師：桜井祥行さん
(11月)

生涯学習公演

松崎小学校PTA教養部との共催で、生涯学習公演「お笑い劇団！笑劇派爆笑新喜劇」を開催しました。

来場者の皆様は、防災や防犯といった社会的なテーマを楽しみながら学んでいました。



お笑い劇団！笑劇派
爆笑新喜劇
(11月)

生涯学習講演会

松崎町体育協会との共催で、元小結・舞の海として活躍され、現在はNHKの相撲解説者等をされている舞の海秀平さんを講師に招き「小よく大を制す」と題し、講演会を開催しました。



講演する舞の海秀平さん
(2月)

ジュニアボランティアクラブ

町内外の施設や行事で小・中・高校生がボランティア活動に取り組みました。

今年度は121人が登録し、さまざまな活動に参加しました。

年20時間以上活動した生徒は35人、50時間以上活動した生徒もいました。



海岸清掃ボランティア
(7月～8月)

生涯学習教室や公演の開催予定については、広報まつざきお知らせ版や回覧等で参加者の募集や案内をしています。詳細は、教育委員会まで、お問い合わせください。

【問合せ】

教育委員会 (42) 3971

地方創生戦略策定調査報告⑤（全11回）

昭和村のまちづくりに学ぶ

（群馬県昭和村）

昭和村は群馬県の北部に位置し、人口が7721人、村の面積の約4割は畑で占められています。農業が基幹産業の昭和村では、村内に耕作放棄地はゼロで、特産品としてはこんにゃく芋の生産量が日本一であり、その他レタス、ホウレン草等の高原野菜が栽培されています。

昭和村は関東自動車道昭和インターに近く、高原野菜を早朝に収穫し、都内のスーパー等の開店時に販売できる流通システムが確立されていて

「儲かる農業」を実現しています。村内にある道の駅「アグリーム昭和」では、昭和村の農家の女性33人で組織する「さくら工房」の皆さんが道の駅で農家レストランの運営や農産物直売所で加工製品等を販売しています。「さくら工房」は平成26年度全国地域づくり優秀賞を受賞しました。

昭和村から指定管理をされている「さくら工房」は、村

からの依頼に初めは迷ったのですが、会長の強いリーダーシップにより運営を開始し、こんにゃくを使った料理等を提供。今では、農家レストランだけで年間3000万円の売り上げがあるそうです。昭和村直営の旬菜館という農産物直売所もあり、店内はいたってシンプルなつくりでしたが、年間3億円の売り上げがあるということでした。

また、ミキハウスと協働で、都会に住む子育て中の親子が昭和村で快適に過ごすような地域づくりを目指して貸農園事業等を実施し、村外の親子が農業体験を行っています。

経済的自立、雇用、人口増加ということを考えた時に昭和村を見て感じたことは、道路は地域を大きく変える要素を持っているということです。松崎町で考えると伊豆縦貫道です。今からこの完成を見据えたまちづくりをみんなで考えていかなければならないな

と思いました。

最後に、研修の途中で世界遺産富岡製糸場を見学しました。平日でも入場待ちがあり、また周辺の商店街のにぎわいを見ると世界遺産の効果は絶大だと感じました。松本市の開智学校等と連携して重文岩科学校を世界教育遺産群にできないかなと夢を抱いて帰路につきました。

【第10グループ記】



地域資源となっている河岸段丘を視察



さくら工房での研修

100歳のお祝い

高橋まつさん（石部）

（大正5年1月20日生）

1月20日、齋藤町長は高橋さんの自宅を訪問し、お祝い金と記念品を贈呈して100歳の誕生日をお祝いしました。齋藤町長からお祝いの言葉を受けた高橋さんは、「ありがとうございます。とても嬉しいです」とはつきりとした口調で答えていました。



100歳のお祝いを受ける高橋さん

津波避難訓練

3月6日（日）、津波浸水想定区域の地区にて津波避難訓練が行われます。

今回の訓練は、駿河トラフから南海トラフを震源域とする大規模地震が発生し、間もなく大津波が来襲することを想定した避難訓練で、津波避難の習熟を図るとともに、避難の課題を把握し、今後の取り組みに生かしていくことを目的としています。

積極的に訓練に参加し、津波から命を守るために、平時からの事前の備えや、地震発生時にとるべき行動について考えましょう。

○日時

3月6日（日）午前10時～

○対象地区

松崎・江奈・桜田・伏倉・宮内・道部・金沢・三浦

○その他

当日、午前9時30分から正午まで、西区津波避難タワーを開放します。

【問合せ】

総務課（42） 3963

【問合せ】

健康福祉課（42） 3966



しずおかアダプトロードプログラムに関する同意書締結式

1月21日、松崎町まちづくりやろうじゃ協議会、県、町の3者が、県道下田松崎線の宮の前橋から伏倉橋までの道路沿いの環境美化を協働で行う旨の同意書を締結しました。



平成27年度松崎町社会福祉大会

1月27日、環境センター文化ホールにて、平成27年度松崎町社会福祉大会が開催されました。式典では、静岡県社会福祉協議会会長表彰等の表彰が行われました。



松崎高校の生徒有志がなまこ壁クリーニング

2月5日、町内に残る「なまこ壁」の歴史的価値等について知識を深めることを目的とした景観学習の一環で、松崎高校生徒会が中心となり、なまこ壁の清掃活動を行いました。



鬼射まつり

2月11日、池代地区にある日吉神社では、1年の厄除けや家内安全等を願う伝統行事「鬼射まつり」が行われました。早朝に池代川で身を清めた後、弓太郎が約20m離れた的を射しました。

平成28年度当初予算案

2月12日、静岡県は10月に実施した国勢調査の速報値を公表しました。

今回の公表において、松崎町は5年前の同調査に比べ、人口が816人減少しています。減少率を見ますと、10・7%となり、県内で3番目に高い値となっています。

安全なまちづくりを推進し、地域産業の活性化を目指し、町民の皆様や移住してきた人たちの起業を支援することにより、町を活性化させたいと考えています。

またこうした活動を支援し、十分な能力を発揮していただくためには、親の介護や子育ての不安を解消しなければなりません。この

こうした急速に進む少子高齢化に対応し、小さくても光り輝くまちづくりを推進するため、新年度予算案では、平成の花とロマンのふる里づくりの推進、人口減少対策、防災減災対策、子育て支援、健康長寿への取り組みを重点施策として優先的な展開を図ることとしました。これらの重点施策を展開することにより、魅力あるまちづくり、安心

町長室からこんにちは ⑦⑤

ためには、高齢者の皆様がいっまでも元気に自立した生活を送るための施策、また、子育てをしながら社会へ参加できるための支援が不可欠だと考えています。

これらの施策に重点を置き、町政の舵取りをしていきますので、ご理解とご協力をお願いします。

松崎町長
齋藤 文彦

地域を知って地域に貢献

松崎高校サイエンス部



ジオに関する勉強や観光マップの制作等を行っている松崎高校サイエンス部は、「地域を知る」を根幹に活動をしています。

「松崎や西伊豆にはすごいモノがたくさんあります。ジオに関する勉強や観光マップの制作等を行っている松崎高校サイエンス部は、生徒にこの地域の魅力を伝えてもらいたい。サイエンス部では、その場を提供しています」と話すのは、サイエンス部の顧問を

Profile

まつざきこうこうさいえんすぶ

1・2年生の部員17人と先生3人で活動しています。昨年6月に行われた伊豆半島ジオパークの世界ジオパーク認定に向けた現地審査では、サイエンス部が「枕状溶岩」を英語で紹介しました。



▶町歩きマップの制作に向け素材の写真撮影

務める富川友秀先生。

松崎高校サイエンス部は、

「地域についてもっと知ろう」、「地域の魅力を発信していこう」との思いからジオサイトについての勉強を

始めました。平成26年度には、松崎と西伊豆の風習・伝統も取り入れたジオカル

タの制作、西伊豆町一色の「枕状溶岩」の保全や同ジ

オサイトの英語版パンフレットの制作を通じ、地域の文化発信に貢献した点が

認められ、県教育委員会が主催する「高校生ひらめ

き・つなげるプロジェクト2014」で、実践部門最

高賞となる県教育長賞を受賞しました。

現在は、6月の文化祭までの完成を目指し、松崎と

西伊豆の魅力を高校生視点で紹介する町歩きマップを制作しています。

「生徒が実際に地域に赴き、地域や地域の人々と関わりを持った活動をするこ

とが大切です。この結果として、地域に貢献していけ

たらいいなと思います」と話してくれました。

姉妹都市通信

帯広市から

おびひろ氷まつり

氷点下20度を下回る日もある帯広の冬。そんな厳寒のまちを盛り上げる「おびひろ氷まつり」を、毎年2月上旬に開催しています。北海道の冬の祭りといえば「さっぽろ雪まつり」が有名ですが、札幌の年間降雪量が約6日であるのに対し、2日ほどの帯広では、「氷」が主役となるのです。53回目の今年は、2月4日から7日に行いました。

巨大な氷雪の滑り台や人力で回転するソリ、地元十勝の学生が歌やダンス等を披露したステージイベント、カーリング体験等、思い思いに楽しむ子どもたちや家族連れで会場は大盛況でした。

氷まつりは、アトラクションやステージイベントだけでなく、温かくておいしい品々に舌鼓を打てるのも魅力。筆者も、十勝産の食材を使った鍋等を食べ、体の芯から温まることができました。

日が暮れると、氷雪像が力



▲夜の会場ではライトアップも

▶巨大な氷雪の滑り台



ラフルにライトアップされ、会場は幻想的な美しさに包まれます。さらに、澄み切った冬の空には約1000発の花火が美しく打ち上げられます。来年は松崎町の皆さんも氷まつりを満喫してみませんか。防寒着をしっかり用意して、ぜひお越しください。

ストロップ！悪質商法被害！あなたも賢い消費者に⑤

「SNSの無料アプリ。面白そう！でもちよつと待って」

スマートフォンが広く普及したこともあって、SNSを利用して友人や知人等と日々の出来事等についてやりとりをする方が増えています。

こうしたSNSでは、例えば「あなたは〇〇型の人間？」「あなたの今年の10大ニュースはこれだ！」といった面白い無料のアプリが提供されている場合があります。注意していただきたいのは、こうしたアプリには、①アプリを利用するとある商品について利用者がお勧めをしたように表示される、②利用者のスマートフォンに保存されている電話帳やSNSでの過去の書き込み等の個人情報収集され

るといった、思いもよらないような事態が発生する場合があります。従って、こうしたアプリを利用する際には「面白そう！」と安易に利用する前に、利用前に表示される「このアプリを利用することによってどうなるのか」といったことをじっくりと確認し、ええで慎重に対応することが必要です。



(文と絵)
司法書士 山田茂樹
【問合せ】
企画観光課(42) 3964

町の人口と世帯

(平成28年1月31日現在)
()内は前月比

総人口	7,166人	(-5人)
男	3,402人	(-3人)
女	3,764人	(-2人)
世帯数	3,039戸	(-3戸)
転入	13人	転出 5人
出生	2人	死亡 15人

(1月届出分)
戸籍だより



おめでとうございます(出生)

地区	名前	性別	保護者
江奈2	皇 覇	男	藤井雅人

おくやみ申し上げます(死亡)

地区	氏名	年齢	届出人
南区	糸川 茂	76	直 美
江奈2	石田和久	74	英 敏
峰	山本源一	86	圭 子
江奈3	田口 隆	54	陽 子
伏倉	津村碩司	81	初 子
道部	宮内むも子	87	一 男
北区	高橋久乃	96	内田京子
伏倉	菜野テル子	105	一
金沢	菊池町子	86	梅 雄
中区	山本正治	93	一 雄
南区	森 惣二	89	幸 一郎
江奈2	藤井てつ子	84	寿 之
北区	須田次男	93	壮 吉

12月届出分

地区	氏名	年齢	届出人
伏倉	田口節子	90	啓 二

※この欄に掲載を希望されない場合は、お申し出ください。

町の交通事故

平成28年1月発生分

()内は前年同月比

人身事故	2件	(-1)
物損事故	12件	(-3)
死者	0人	(±0)
傷者	2人	(-1)

町の人事について

【退職】1月28日付け

窓口税務課課税係

関 幸恵

【問合せ】

総務課(42) 3963

編集後記

今月の表紙は、来年度1年生となる園児の小学校1日体験入学です。園児は現1年生のお兄さん、お姉さんに校舎内の案内や学校生活について教えてもらい、1年生となることへの期待が膨らんだようでした。

さて、気が付けばもう3月です。那賀の田んぼをつかった花畑では開花が順調に進んでいます。今年度もあと1カ月。春の陽気にあてられ油断しないよう気をひきしめていきたいと思っています。(ま)

松崎文芸

俳句

節分の豆踏む足の痛さかな
遠き日に氷柱の丈を競ひけり
冬の驚まなこ鋭く立つ川辺
烈風に一時避難の冬かもめ
一本の杉大寒の月を刺す
節分や歳の数ほど豆食べる
冴返る深夜を抜ける救急車
それぞれに小石さしよぐ霜柱
幼子の瞳キラキラ春近し
花好きの姉の遣せし君子蘭
残雪のアルプス遠しやい船
姿なき鬼に向ひて豆打てり
節分の大豆三合炒りにけり
節分や働ける身を福として
人ごみに掛け声わたる節分会
冬ごもり時間をかけて豆を煮る
喰積に妻と正座の瑞気かな

清水高子
山本一詞
鈴木すみ江
高橋信夫
夏目和子
石田宏
斉藤みつ子
小林一男
土屋規矩子
佐藤亨
松田美智子
鈴木基
依田ふじ枝
吉岡うた子
田中道源
稲葉菊恵
細矢金治